

## コウノトリがやって来た 北池の課題



2018年12月コウノトリが初めて北池にやってきましたが、短い滞在でした。もっと長く滞在してもらうには、エサとなる魚が鍵になりそうです。今より魚が豊富になるには、水草の働きによる水中環境の改善が必要であり、水草繁茂の妨げとなっているミシシippアカミミガメの駆除が急務と思われます。

2019年1月

衣笠誠一郎

## 1. はじめに

2018年12月9日、初めてコウノトリが北池にやって来ました。9月17日福井県越前市湯谷町で放鳥されたオスの愛称りゅうくん（2018年5月8日生まれ、J0204）です。



写真 1 コウノトリ（撮影 2018年12月9日北池にて）

12月9日朝6時55分～7時30分の間、コウノトリは北池でエサをとっているのが見られました。その後、秋ヶ池、古宮大池、向ヶ池、妹池でも見られています。

このコウノトリが北池にしばらくの間滞在してくれるかもしれないと期待しましたが、そうはなりません。昨年ヘラサギが北池に2週間ほど滞在しました。北池で夜を過ごし、日の出から30分ほどの間エサをとった後、向ヶ池などの池で日中休息していました。コウノトリとヘラサギは異なる鳥なので、同じように振舞うはずはないのですが、北池にエサの魚が豊富にあればヘラサギと同じように滞在したかもしれません。コウノトリにとって現在の北池は、長く滞在するだけの魅力がなかったということでしょう。北池がコウノトリにとってより魅力のある池となるために、なにができるのかを考えてみたいと思います。

野鳥にとっての滞在場所の魅力とは、

- ・食べるエサが豊富にあること
- ・外敵から身を守るため安全な場所であること

などが考えられます。

北池にはコイやフナなどの魚がいます。秋から冬にかけて水位が下がったときに、カワウやアオサギ、ダイサギ、コサギなどのサギ類が集まってきます。特にカワウは大群で魚を追い込んで狩りをするので、魚を食べ尽くしてしまうのではとの心配があります。

## 2. 北池の水位とカワウ、サギ類の数の変化

北池の水は農業用水として使われており、季節により水位は変化します。秋に稲の収穫が終わると、水位は下げられます。2017年と2018年について、10月下旬～12月の水位とカワウ、サギ類の数をグラフとして図1に、図2に示します。

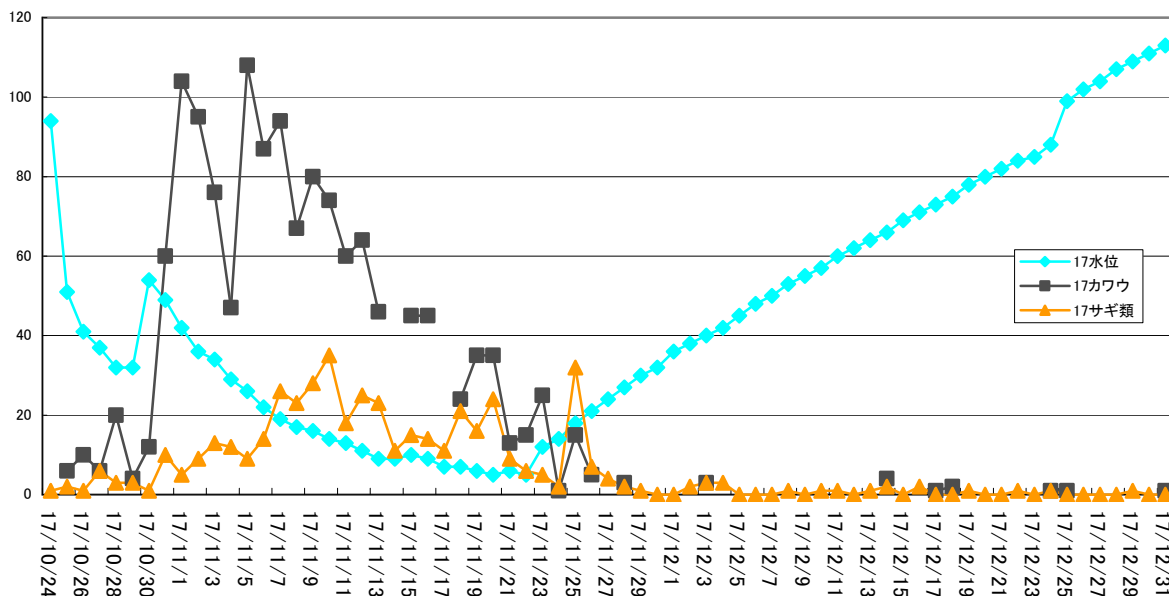


図1 2017年10月～12月の北池の水位とサギ類とカワウの数の変化

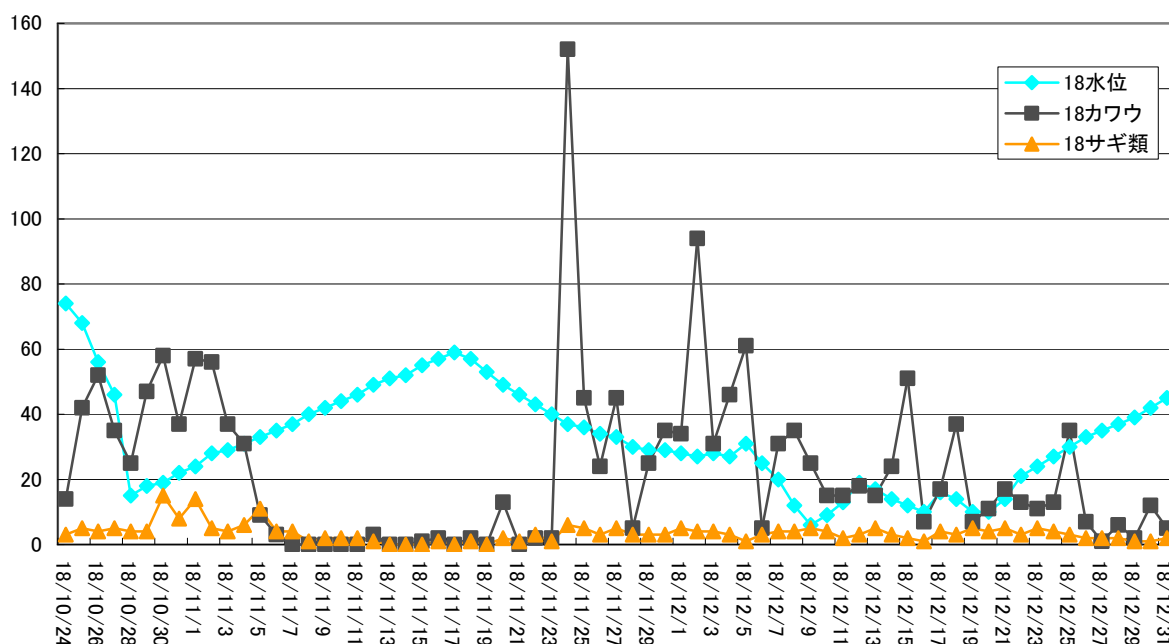


図2 2018年10月～12月の北池の水位とサギ類とカワウの数の変化



## 2.1. 2017年の水位変化とカワウ、サギ類の数

2017年10月21日に通過した台風21号の雨により上昇した水位は、その後急速に下げられ10月29日に32cmまで下がります。10月30日降雨により一時上昇した後は低下が続き、11月20日水位5cmまで低下した後上昇に転じました。11月20日水位5cmの様子を写真2に示します。この時、水面の面積は満水時の約3分の1に縮小しています。



写真2 水位5cmの北池（撮影2017.11.20）

水位が低下し続けた10月30日～11月20日までの約3週間、カワウとサギ類が多く集まりました（写真3）。カワウは日の出頃よりぞくぞくと集まり、集団で魚を追い込み捕らえてつぎつぎに食べてゆきます。日の出後30分ほど経つと、いっせいに飛び去ります。曇りや雨の日は、カワウの飛来が遅いようです。

この期間の前半、カワウは毎日のように50～100羽が集まり、魚が食べ尽くされてしまうのではとの心配をおぼえるほどでした。その後、カワウの数は徐々に少なくなりました。水位が上昇に転じ11月26日に20cmを越えると、カワウは数羽程しか集まらなくなりました。



写真3 北池に集まるカワウ（左、撮影2017.11.2）とサギ類（右、撮影2017.11.9）

サギ類は10月31日に10羽、少しずつ増えて11月10日の35羽を最高に、その後も10～20羽が集まっています。サギ類に混じってヘラサギが、11月8日～22日の間北池に滞在しました。

## 2.2. 2018年の水位変化とカワウ、サギ類の数

2018年北池の水位は、10月28日に15cmまで下げられた後、徐々に上昇し11月17日59cmに達しました。その後低下し12月9日6cmまで下がった後上下し、20日より上昇に転じています。

2018年のカワウは、10月末～11月初旬にかけて水位が低下した際に、25～60羽ほどが集まりましたが、その後11月23日までは数羽程度と少ない日が続きました。11月24日に150羽を超える大群が集まりましたが、連日集まることはなく、多く集まる日と少ない日が繰り返しています。雁行状に群れをなして上空を通過して行くカワウの群れが、毎日のように見られましたが、北池に降りてくるのはほとんどありませんでした（写真4左）。



写真4 北池上空を通過するカワウの群れ

サギ類は、水位が20cmほどに下がった10月30日～11月1日の3日間に8～15羽が集まりましたが、その後は数羽程度が続いています。12月9日水位は6cmにまで低下しましたが、サギ類は5羽しか集まらず、その後も少ない日が続いています。

### 2.3. カワウとサギ類の累計

カワウとサギ類の毎日の観察数を、旬ごとの累計を表 1 に示します。

表 1 カワウとサギ類の累計

	カワウ		サギ類	
	2017 年	2018 年	2017 年	2018 年
10 月 21-31 日	124	367	36	52
11 月 1-10 日	<b>832</b>	193	174	53
11-20 日	<b>354</b>	21	178	7
21-30 日	77	335	68	33
12 月 1-10 日	3	377	10	37
11-20 日	7	202	7	32
21-31 日	3	117	3	28
計	1,394	1,527	467	230

2017 年のカワウは 11 月上旬が突出して多く、中旬では半減し、12 月に入ると少なくなります。2018 年は、11 月中旬を除いて各期とも 100~300 数十羽となっています。2018 年は前年のように突出した期間がないため、2017 年より少ないような印象がありましたが、3 ヶ月の計でみると 2018 年の方が 2017 年よりも多くなっています。

2017 年のサギ類は、11 月上旬と中旬が多く、12 月に入ると少なくなります。2018 年は、カワウと同じように 11 月中旬が少なく、他の期もそれほど多くありません。3 ヶ月の計でも、2017 年の半分くらいと少なくなっています。

### 3. 考察

カワウとサギ類が 2017 年 11 月上旬から下旬にかけて、突出して多く集まったのは、3 週間にわたり水位が低下し続けたことと、周囲の池に先駆けて水位が下がったからかもしれません。水位が下がると、水面の面積は縮小し、水深も浅くなるので、魚を捕らえ易くなります。北池の周りには多くのため池があり、野鳥はエサが捕りやすい池を選んで集まると考えられます。この 3 週間の後半にかけてカワウの数が減少したのは、周囲の池でも水位が下がり、そちらへ行くカワウが多くなったからと思われる。

2017 年 11 月上旬は連日集まったカワウの大群により、魚は食べ尽くされるのではとの心配がありました。前章のとおり、10 月下旬～12 月末のカワウの計は 2017 年が 1,394 羽、2018 年は 1,527 羽であり、2018 年の方が 2017 年より多くなっています。2017 年のカワウの大群により北池の魚は食べ尽くされてしまったのではないかという心配は杞憂であったと言えます。しかし、多くのカワウが北池に飛来し、たくさんの魚が食べられていることは問題です。

カワウから北池の魚を守る一つの方法として、水位を下げる時期を調整することが考えられます。周囲の池と同じ時期に水位を下げるように調整すると、カワウの行き先が分散されるかもしれません。

コウノトリの北池への飛来は、12 月 9 日、20 日、21 日、22 日の 4 日間確認できています。20 日の夜一晩だけ北池をねぐらとしました。2017 年 11 月のヘラサギのように、滞在することはありませんでした。もっとエサとなる魚が豊富であれば、北池をねぐらとして長期滞在することになったかもしれません。

魚が豊富になるためには、魚のエサが豊富になればならず、そのために水中の環境改善が必要です。水中の溶存酸素が多くなれば水質改善にもなり、トンボのヤゴなどの水生昆虫なども増えるでしょう。

水草があれば水中での光合成が行われ、酸素が供給されます。現在の北池には、水面に葉や花を浮かべるスイレンやヒシなどの水草が見当たりませんが、カモが底の泥の中から茎のようなものを食べているので（写真 5）、底の泥の中に水草の茎があるようです。

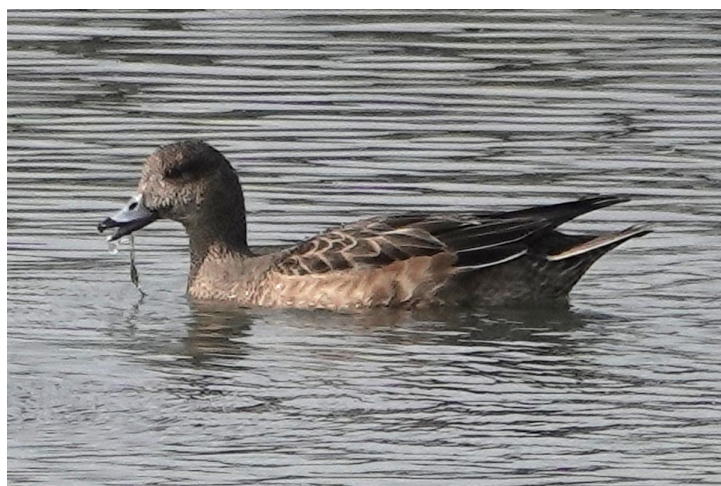


写真 5 水草の茎を食べるオカヨシガモ（撮影：2018.12.5）

北池にはミシシippアカミミガメが数多くいて、泥の中の水草を食べてしまうといわれています。ミシシippアカミミガメは北池の水中の環境改善を妨げており、できるだけ早期の対策が望まれます。

#### 4. おわりに

播磨町にコウノトリが飛来したのは、今回が初めての様です。農繁期が終わり播磨町内のため池の水位が下げられた時なので、エサとなる魚を捕らえやすく、北池のほか、秋ヶ池、大池、向ヶ池、妹池を行ったり来たりして播磨町内に3週間ほど滞在したようです。

以前より、ミシシippアカミミガメの問題は認識されており、播磨町の施策により、狐狸ヶ池では既に駆除に成功しています。ミシシippアカミミガメが駆除されると、水草が復活すると言われています。水草が繁茂すれば、水中環境が改善され、農業用水としての価値も高まると思われます。生態系の質と量が豊かになることは、播磨町に住む私たちにとっても望ましいことと思われます。北池をはじめ、町内のため池についても、早期にミシシippアカミミガメの駆除対策がとられることを願います。

ため池の魚の多くがカワウに食べられていることについて、どれほどの問題として認識されているのかわかりませんが、ため池の水位低下の時期を同期させることで、カワウの集まりを分散させるよう試みではいかかかと思えます。

北池を含め播磨町内のすべてのため池が、現在よりも生態系が豊かな状態になれば、コウノトリがもっと長く滞在する可能性がありますし、遠くシベリアより飛来する渡り鳥の越冬地としての魅力が高まるかもしれません。

著者： 衣笠 誠一郎 kinugasa-m@s8.dion.ne.jp

北池の野鳥情報： <http://kitaike.jpn.org/>

この文書は次の URL にて公開しています

[http://www.kinumate.sakura.ne.jp/publish/Stork\\_Kitaike201812.pdf](http://www.kinumate.sakura.ne.jp/publish/Stork_Kitaike201812.pdf)